第4期中期目標

Ⅰ　教育研究の質の向上に関する事項
　4　その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項
　（２）国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。【⑱】

中期計画

Ⅰ　教育研究の質の向上に関する事項を達成するためにとるべき措置
　4　その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項に関する目標を達成するための措置
　（２）-3　文化・学術資源の発信（No.30）
・本学の教育・研究支援及び社会連携機能を強化するため、リアルとバーチャルを融合した、ハイブリッドな文化・学術資産の公開・発信機能の高度化を推進する。本学の所蔵する古典資料、歴史資料、博物資料、標本等の文化・学術資源について、リアルな展示・公開による実物の持つ価値を訴求する活動の継続に加えて、学内関連部局間の協働や大学間連携などの体制整備によりデジタルアーカイブ化を推進し、広く国内外に発信する。

評価指標	指㉛ 第4期中期目標期間中に、貴重資料等の文化・学術資源のデジタルアーカイブ化の公開件数（画像数）を、令和3年度比で2倍以上増の100万コマとする

令和4年度附属図書館重点施策（年度当初決定事項）

教育

1．社会情勢の変化に即した図書館サービスの展開

研究

1．学術情報のデジタル利用・オープンサイエンスの推進

2．「東北大学総合知デジタルアーカイブ」の整備

社会との共創

1．大学創立115周年・総合大学100周年・附属図書館111周年記念事業の展開

2．オンラインの訴求力・波及力による広報展開

経営革新

1．附属図書館将来構想の検討
2．業務改善・人員配置の最適化
3．業務DX化の推進
4．東北大学特定基金「図書館のみらい基金」の有効活用

①感染症拡大対策としての短縮開館を終了

令和4年7月1日（金）に、本館が通常開館を再開した。感染症対策で短縮開館等の対応をしていたが、約2年3か月ぶりに本来の開館時間に戻った。なお、6月1日（水）からは学外者の入館利用も再開し、11月からはグループ学習が館内で可能となった。

【本館】ついに、ついに約2年3ヶ月ぶりの通常開館です！！
利用者の皆様には長らくご不便をおかけいたしました。今後もどうぞ図書館をご活用ください。

午前9:03 · 2022年7月1日

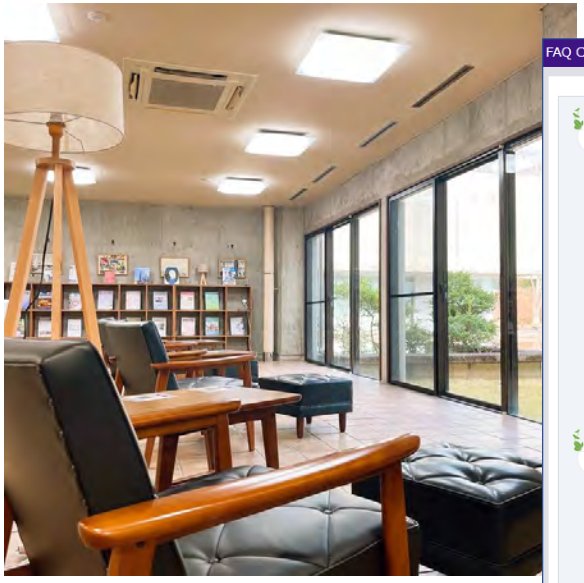
89 件のリツイート　**10** 件の引用ツイート　**496** 件のいいね

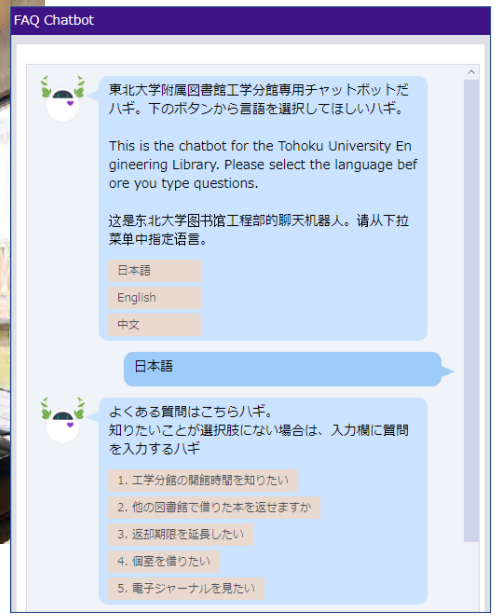
総開館時間数の推移（本館）

年度	総開館時間数
H29	4,723
H30	4,739
R1	4,667
R2	2,193
R3	3,562
R4	4,571

②使い方に合わせた環境の整備（工学分館）

工学分館ではリモート問い合わせに対応するため、チャットボットを導入した。既存のチャットとの連携により応対可能時間が伸び、状況に合わせて変化する開館時間やサービス内容へのアクセスが容易になった。また、感染症下でストレスや不安も高まりがちであることから、エントランスの什器や照明をリラックスできるものに更新した。





③全学授業との連携

全学部を対象とした授業と連携し、教育支援を行った。

【前期】初年次必修科目「学問論」

授業の中で、図書館が作成した動画教材（4種類）を使用。

【後期】カレントトピックス「中級アカデミックライティング：現代的課題に関する文献購読とレポート作成」

前期の「学問論」で学んだ知識を前提に、大学生に求められる学術的なレポートの作成法や、それに必要な情報収集の基礎と図書館活用法を学ぶ。

令和2年度に全学教育貢献賞を受賞した「大学生のレポート作成入門：図書館を活用したスタディスキル」の後継科目

「中級アカデミックライティング」第3回「人文学における文献探索」の様子

図書館所蔵資料の有効な使い方を学んでいる様子（有光副館長による説明）

古典資料の特徴を学んでいる様子（情報サービス課職員による説明）

④学習を持続可能とする電子ブックの活用と定着

コロナ禍においても、学習や研究を止めることなく、持続可能とする電子ブックの需要と利用が定着傾向にある。来館型利用者が戻る中、冊子体と比較し、物理的な認識がしにくい新着電子ブックについて、デジタルサイネージやQRコード掲示等広報の工夫により可視化し、利用者の反応と効果的な利用を検証した。掲示後、1か月間の集中的なアクセスによる効果が最も期待できることを確認した。

WEBサイトより

Twitterより

⑤全分野を俯瞰する電子ブック共同整備の試行開始

平成21年度から予算配分が開始された学生用図書整備事業は、初年度より予算が半額減となり、高額な電子ブックや基本的な学習書・教養書を買支えることが困難になりつつある。そのため、一定水準の学習環境を維持するための予算確保とともに、令和４年度からは、どこからでもアクセス可能な電子ブックの特徴に着目し、全館において俯瞰的な選定と蔵書の充実を目指す「共同整備」の試行に着手した。合わせて、全館職員による収書委員会の活動も始動した。

全学的基盤経費10％の181万円を充当

共同整備数は、148タイトル

【期待される効果】
- ○全学における異分野間の学習・研究を促進
- ○附属図書館全館における俯瞰的な蔵書構築を実現
- ○さらなる有効活用と業務の効率化を推進

電子ジャーナルパイロットプロジェクトの開始

国内の大学図書館のファーストペンギンに！

転換契約の考え方

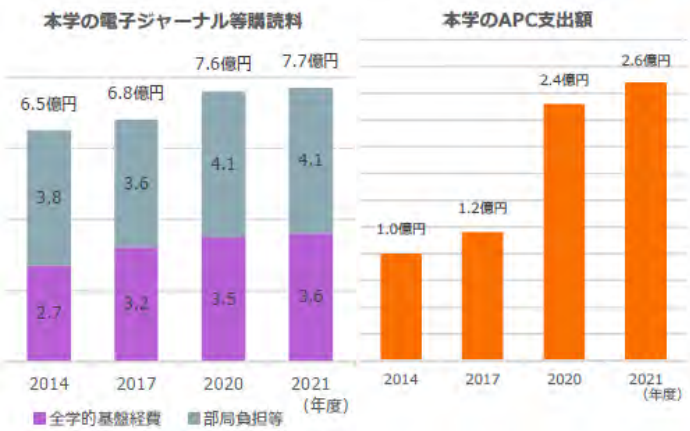
①電子ジャーナル購読料の高騰
②APC（論文掲載料）の価格上昇、支払額増加

①+②により、大学から出版社への支払い総額が増大

両者をまとめて契約し、
・購読からオープンアクセス（OA）出版への転換
・OA出版の拡大、購読料の抑制を目指す

▶ 4月からWiley社転換契約を開始

▶ 11月Springer Nature社転換契約プレスリリース



TOHOKU UNIVERSITY　東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO　Tokyo Tech　YNU 横浜国立大学　国立大学法人 福井大学 UNIVERSITY OF FUKUI　大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
KOBE UNIVERSITY　OKAYAMA UNIVERSITY　WASEDA University 早稲田大学　TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE since 1881　SPRINGER NATURE

2022 年 11 月 21 日

報道各位

国立大学法人　東北大学
国立大学法人　東京大学
国立大学法人　東京工業大学
国立大学法人　横浜国立大学
国立大学法人　福井大学
国立大学法人　大阪大学
国立大学法人　神戸大学
国立大学法人　岡山大学
学校法人　早稲田大学
学校法人　東京理科大学
シュプリンガーネイチャー

研究大学コンソーシアム（RUC）のメンバーを中心とする国内 10 大学が
シュプリンガーネイチャーとオープンアクセス論文出版の促進に関する合意書に署名

～ 世界に向けた日本発研究成果のオープン化促進を図る ～

転換契約がもたらす効果

①Wileyとの転換契約

Confidential

契約内容
- 契約期間:2022年4月1日～2024年12月31日 ※2年9か月のパイロットプロジェクト
- 購読タイトル:全タイトル(約1,450誌)をこれまでどおり、全て閲覧可
- 出版条件:2023年 174論文までは当初契約額の範囲内でOA出版可
  (出版枠超過後はAPCを5%割引)

著者の選択		論文数	職種別内訳							
			教授	准教授	講師	助教	博士課程	修士課程	学部生	研究員等
ハイブリッドOA誌	OA	45 (42%)	16	5	2	15	5	0	0	2
	非OA	63 (58%)	18	15	12	12	1	0	3	2
	合計	108	34	20	14	27	6	0	3	4

※Wiley 2022年4月～12月（9か月間）→2023年はフルOA誌も対象に

②Springer Natureとの転換契約

Confidential

契約内容
- 契約期間:2023年1月1日～2025年12月31日 ※3年のパイロットプロジェクト
- 出版条件:2023年 131論文までは当初契約額の範囲内でOA出版可
  (出版枠超過後はAPC定価を出版社に支払※著者は半額相当を負担)

著者の選択		論文数	職種別内訳							
			教授	准教授	講師	助教	博士課程	修士課程	学部生	研究員等
ハイブリッドOA誌	OA	11 (42%)	2	2	2	2	2	0	0	1
	非OA	15 (58%)	3	1	3	6	0	0	1	1
	合計	26	5	3	5	8	2	0	1	2

※Springer 2023年1月～2月（2か月間）→概ね順調

2022年WileyOA出版論文数の推移

	2018 (H30)	2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	4か年平均		2022 (R04) 1-3月		転換契約開始 4-12月		合計
A) ハイブリッド誌【2022年転換契約対象】	211	172	188	187	190	100%	55	100%	**108**	100%	163
A1) OA選択	13	9	26	21	17	**9%**	7	13%	**45**	**42%**	52
A2) OA非選択	198	163	162	166	173	91%	48	87%	**63**	58%	111
B) フルOA誌【2022年転換契約対象外】※2023年から転換契約対象	18	26	24	41	27		11		30		41
C) 合計	229	198	212	228	217		66		138		204
※ OA論文（=A1+B）	31	35	50	62	44	(C比) **20%**	18	(C比) **27%**	75	(C比) **54%**	93

転換契約により OA出版率UP

※本学構成員が Corresponding Author (責任著者) の論文

2022年Wiley転換契約による **3 大効果**

- OA出版論文数　45件　**① OA出版数の拡大**
- APC相当額累計　$ 172,314.48　**② APC支払額軽減**
- OA出版分担金　**¥ 8,895,050**　→2023年購読料へ充当

③ 購読料支出削減

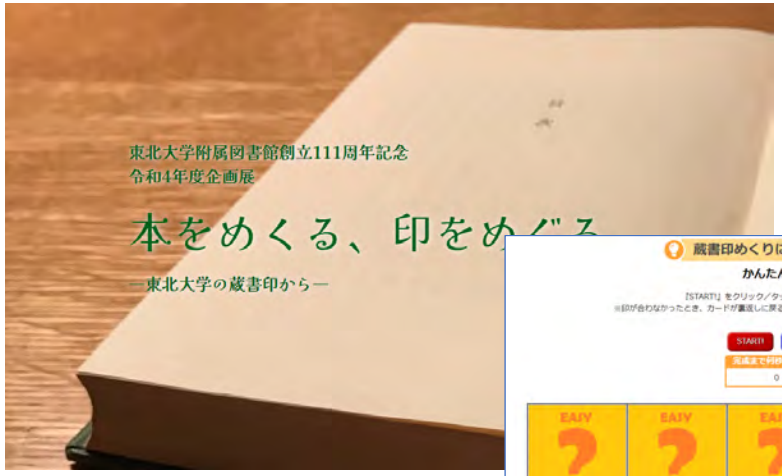
社会との共創　1．大学創立115周年・総合大学100周年・附属図書館111周年記念事業

①ロゴマーク策定

令和4年6月14日（火）に、附属図書館が111周年を迎えたことを記念し、ロゴマークの策定や職員による記念動画を作成・公開した。ロゴマークは職員が作成したもので、本のノンブルが111ページとなっている図柄など図書館らしいデザインとなった。また、色のバリエーションも7色で展開し、年度内に様々なイベントや広報物等に使用された。

②蔵書印展示（ハイブリット展示・巡回展）

令和4年10月3日（月）から、図書館の蔵書印を巡りながら本学並びに図書館の歴史をたどる企画展「本をめくる、印をめぐる-東北大学の蔵書印から-」を開催した。感染症拡大のためこれまではオンラインで実施してきたが、3年ぶりのリアル展示となった。展示は本館を皮切りに各分館を順次まわる巡回展とし、多くの利用者の目に留まるよう工夫した。また、オンラインでの展示も同時に開催し、年表と合わせた蔵書印の表示や、蔵書印を使用した神経衰弱ゲームなどオンラインならではのコンテンツを提供した。



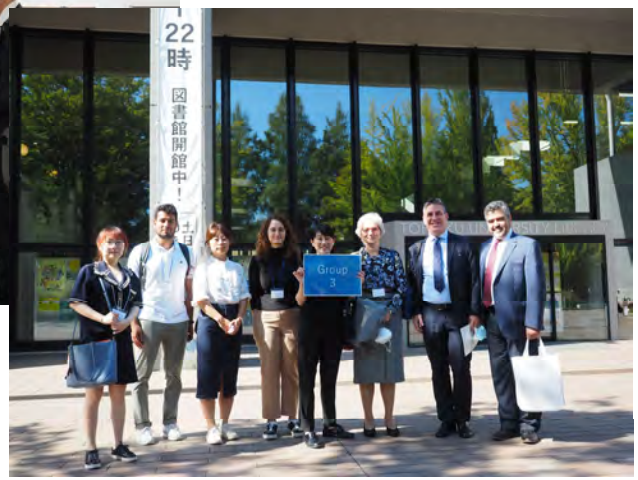
社会との共創　1．大学創立115周年・総合大学100周年・附属図書館111周年記念事業

③「吾輩は羊羹好な猫である」発売

令和4年9月13日（火）に、大学創立115周年・総合大学100周年を記念して、図書館が所蔵する「漱石文庫」をモチーフにした羊羹が発売され、令和5年1月までに10,000箱が販売された。大学には、東北大学ロゴマーク使用料が入るほか、売り上げの一部から「漱石文庫」保存のため附属図書館に寄附されることとなっている。

④支倉サミット見学ツアー実施

令和4年9月30日（金）に、大学創立115周年に合わせて開催された「支倉サミット2022」出席のため世界各国から集まった一行約40名が本館を訪れ貴重書等を見学した。参加者はナポリ東洋大学の学長を始め各大学の学部長クラスの研究者であった。図書館では英語及び日本語の案内のグループに分け、60分程度のツアーを行ったが、貴重資料や建物の地震対策に多くの質問が寄せられた。



⑤ビブリオバトル開催

令和4年10月28日（金）に、附属図書館本館を会場として「全国大学ビブリオバトル2022」の地区予選会を開催した。また、12月4日（日）には「全国高等学校ビブリオバトル宮城県大会」も宮城県教育庁との共催により開催した。双方ともに読書推進を目的としたイベントで、それぞれハイブリッドでの開催だったが観覧者を含めて大いに盛り上がった。

⑥KIBOKO記念号発行

令和4年10月1日（土）に、附属図書館の111年の歩みを振り返る「KIBOKO（木這子：附属図書館報）」の特別号を発行した。特別号では大隅典子附属図書館長による巻頭言に続き、沿革、学生と若手図書館員による座談会、図書館へのメッセージ集など、充実した内容となった。

社会との共創

2. オンラインの訴求力・波及力による広報展開

①地震復旧への支援

令和4年3月16日（水）に発生した福島県沖地震（M7.4）により、附属図書館は全館で資料落下、施設・什器の破損などの多大な被害を被った。各館の状況に応じて順次サービスを再開し、施設等の復旧を進めた結果、10月には全館の全エリアが使用可能となった。なお、図書館の被害状況及びサービス再開状況に関するSNSからの発信により、「図書館のみらい基金」に多くの寄附が寄せられ、最も被害が大きかった農学分館の復旧にはこの一部が充当された。

2.対応状況（2022年3月24日時点→更新：5月13日時点→更新：6月13日時点→更新：10月11日時点）

館名	(1) 発生直後の開館への影響	(2) 制限事項
本館	・3/17(木),3/19(土)～21(月・祝)臨時休館 ・3/18(金)短縮開館（9-17時） ・3/22(火)～通常時間での開館	・~~1号館の一部エリア、2号館全体の使用不可~~利用不可エリアあり
医学分館	・3/17(木)臨時休館 ・3/18(金)～開館再開（平日9-17時、時間外利用休止・土日祝は完全閉館） ・4/4(月)～通常時間での開館	・~~利用可能エリア限定：1階カウンター、ラーニングコモンズ、グループ学習室、2階閲覧室、別棟1階電動書架~~一部の閲覧席は利用禁止
北青葉山分館（臨時図書室）	・3/17(木)～18(金)臨時休室 ・3/22(火)～臨時図書室開室再開（平日9-17時）	
工学分館	・3/17(木)～3/18(金)午前 臨時休館 ・3/18(金)午後～開館再開（平日9-17時） ・4/4(月)～開館時間拡大（平日9-20時、時間外利用不可） ・5/12(木)～通常時間での開館	・~~一部閲覧席等のみ使用可~~
農学分館	・3/17(月)～~~当面~~4/1(金) 臨時休館~~（部分開館について調整中）~~ ・4/4(月)～1階のみ、短縮開館（平日9-17時） ・4/20(水)～2階図書エリア利用再開（雑誌エリア利用不可） ・4/25(月)～開館時間拡大（平日9-20時、閉館時特別利用不可） ・6/10(金)～雑誌エリア利用再開 ・6/13(月)～通常時間での開館 ・10/11(火)～ 全エリア利用可	・~~利用不可エリアあり~~

②学生ボランティアへの感謝状贈呈

令和4年7月21日（木）に、地震復旧に尽力いただいた「東北大学課外・ボランティア活動支援センター学生スタッフSCRUM」と「東北大学地域振興プロジェクト”HARU”」の学生2団体に館長から感謝状が贈られました。落下した資料の復旧に学生ボランティアが費やした時間は140時間にもなり、当初想定されていた時期より早いサービス再開が可能となった。

「図書館のみらい基金」への寄附状況

【収入】※2023.01.31時点

使途指定	金額	期間	件数
1)指定なし	2,560,861円	2019.03.01～2023.01.30	136
2)漱石文庫	2,200,000円	2021.03.03～2022.07.30	2
3)地震復旧	1,615,799円	2022.03.17～2022.05.24	197
合計	6,376,660円		335

【支出】

状況	使途	内容	金額	期間
済	漱石文庫	棚はめ込み式保存箱	651,200円	2021.11
予定	漱石文庫	資料の電子化	196,592円	2023.03
済	地震復旧	損傷物品購入(農学分館)	432,564円	2022.10
合計			1,280,356円	

農学分館の書架の復旧事例
（ゆがみが生じた棚板の買い替え等）

①インターンシップ実施

令和4年11月～令和5年2月にかけ、優秀な人材確保のためのインターンシップを実施した。既存の業務説明会や独自のセミナー等も実施したきたが、大学図書館員の業務に対する理解をさらに深めてもらい、受験意欲を高めるため当館としては初の試みとなった。今年は本学学生のみを対象に募集し、想定より多い申し込みがあったことから早期に募集を締め切るほど反応はあった。多様な学部から8名の参加者があり、各課の業務を体験した。

②PRRLA総会参加・動画作成

令和4年10月11日（火）～13日（木）[注：現地時間]、ハワイ大学を幹事校としてPRRLA（環太平洋研究図書館連合：Pacific Rim Research Libraries Alliance）の総会がオンラインで開催された。当館は2016年からPRRLAに加盟し、人材育成を兼ねて英語による事例報告等を行っている。今年は参加館の交流を深める目的で各館の紹介動画を撮影することとなり、当館でも仙台や東北大学の紹介を含めた短編動画を撮影した。動画は総会の中で流れ、他館の様子を知る機会となった。